

再検証対象の公立・公的病院及び高度急性期・急性期機能を有する民間病院の具体的対応方針（その 2）

むつ総合病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

下北地域唯一の二次救急医療機関として、高度急性期から急性期医療を中心としつつも、地域住民の高齢化により求められる回復期医療にも対応する。

高度急性期医療については、三次救急医療機関まで 2 時間以上を要する地域であることから、地域完結型の高度医療を提供する。

【病床規模の最適化に係る検証】

今後の人口減少と高齢化に対応するため、急性期病床を減らし、回復期リハビリテーション病棟を新設し、回復機能を持った病床への転換を行う。

当初病棟建替えにより令和 7 年度に病床数の適正化を行う予定であったが、新病棟供用開始が令和 9 年度に延期となった。

【その他】

地域がん診療病院として、高水準の医療を提供し、緩和ケアおよび相談支援により地域で患者を支えている。

医療連携の考え方

【基本方針】

- ・ 地域完結型の高度医療を提供する。
- ・ 医療圏における機能分担をさらに進める。

【具体的な医療連携】

- ・ 主に弘前大学、県立中央病院からの診療応援により、地域住民が高度な専門医療を受けることができる。

弘前大学と連携し、情報通信機器を用いた遠隔医療を行う。血液透析分野において、令和 4 年度から大学の透析専門医による遠隔管理支援を受けている。遠隔支援により、応援医師は移動時間を必要とせず、地域住民はより高水準の医療を受けることができる。

- ・ かかりつけ医の利用を患者へ呼びかけ、医療連携を推進している。

むつ市から在宅医療・介護連携支援センター運営業務を受託し、相談業務や医療と介護の連携支援を行っている。

【その他】

下北医療センター内の病院、診療所への医師の派遣を継続する。

大間病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

- ・当院は北通り地域（大間町、佐井村、風間浦村）に位置し、二次医療機関であるむつ総合病院まで車で1時間かかることから、北通り地域住民の医療を一手に担っている。また、隣接する佐井村では歯科医1名のみであるため、福浦診療所、牛滝診療所へ医師派遣を行い地域医療の充実に努めるほか、高齢者が多い地域であるため、在宅医療や訪問診療にも尽力している。

【病床規模の最適化に係る検証】

- ・令和9年度以降（むつ病院新病棟稼働後）むつ病院新病棟の稼働状況を基に、具体的な病床数の変更及び病床の転換を検討する。

【その他】

- ・令和3年度に医療相談室を設置し、退院・転院調整のほか、入院相談や福祉サービスの利用相談等に努めている。
- ・むつ総合病院が中心となって実施している「むつ・下北地域看護と介護の連携作り委員会」に参加しており、橋渡し窓口の作成、地域での問題や情報共有に努めている。

医療連携の考え方

【基本方針】

- ・むつ総合病院、むつリハビリテーション病院と連携して、地域完結型の医療提供に努める。
- ・医療圏における機能分担をさらに進める。

【具体的な医療連携】

- ・主に県立中央病院からの常勤医師の派遣、むつ総合病院からの整形外科、泌尿器科医師の診療応援により、北通り地域住民への医療の提供に努めている。
また、北通り地域における民間医療機関は皆無であり、どうしても専門的医療が必要な場合は、二次医療機関であるむつ総合病院への紹介及び、むつ市内にある民間クリニックへの紹介に努めている。

【その他】

- ・月に各1回、佐井村にある福浦診療所、牛滝診療所へ医師派遣を行い、へき地住民への基礎的な医療の提供に努めている。